

滋賀県（平成23年度）

この記念貨幣は、「マザーレイク 恵み豊かな琵琶湖」をテーマに、発行されるものです。記念貨幣の表面は、琵琶湖を滋賀県県鳥のカイツブリと琵琶湖に浮かぶ浮御堂の風景とともにデザインしています。

※琵琶湖

国内最大の湖であり、また、約400万年前に誕生し、約40万年前に現在地に定まったとされる世界有数の古代湖。関連水域にのみ生息する固有種も数多く確認されている。近畿約1,400万人の生存と経済的発展を支える重要な水源となっている。

※カイツブリ

全長は約25cmで流れが緩やかな湖沼等に生息する。雛が小さいうちは背中に乗せて保護を行うことがある。古くは「鳩」と呼ばれ、琵琶湖の古称「鳩の海」の語源とされる。

※浮御堂

浮御堂のある海門山満月寺は、平安時代中期に恵心僧都源信が湖上安全等を祈願して建立したのが始まりとされる。

琵琶湖上にある浮御堂は、瀬田の唐橋などとともに、「近江八景」の主題の一つとされ、琵琶湖南部を代表する景勝地である。

浮御堂は国の登録有形文化財（建造物）に登録されている。

岩手県（平成23年度）

この記念貨幣は、「平泉の文化遺産」をテーマに発行されるものです。記念貨幣の表面は、国宝・中尊寺金色堂と中尊寺ハスとともに毛越寺浄土庭園をデザインしています。

※中尊寺金色堂

奥州藤原氏初代清衡が天治元年（1124年）に上棟。堂の内外に金箔を押した「皆金色」で覆われた阿弥陀堂で、須弥壇内には初代清衡から四代泰衡までの遺体等が安置されている。堂は昭和26年に国宝に、中尊寺境内は昭和54年に国の特別史跡にそれぞれ指定されている。

※中尊寺ハス

昭和25年に金色堂で行われた奥州藤原氏遺体調査において、四代泰衡の首級の入った桶から発見された約800年前のハスの種子を平成10年に開花させたもの。

※毛越寺浄土庭園

毛越寺は、奥州藤原氏二代基、三代秀衡により大伽藍が造営されたものの、その後の災禍により多くの建物を焼失した。現在、「大泉が池」を中心とする浄土庭園と伽藍遺構が保存されており、国の特別史跡・特別名勝に指定されている。

秋田県（平成23年度）

この記念貨幣は、「白瀬中尉の南極探検100周年」をテーマに発行されるものです。記念貨幣の表面は、秋田県出身の探検家である白瀬矗の肖像となまはげをデザインしています。

※白瀬矗（西暦1861年～1946年）

幼少期に抱いた極地探検の夢を、40年かけて実現。明治45年（1912年）1月16日に南極大陸に到着し、4名の隊員とともに南極点を目指すも、食料の欠乏等から南極点到達を断念。同月28日、最終到達地点（南緯80度05分、西経156度37分）の一带を「大和雪原」と命名し、帰国。南極にある「白瀬氷河」は彼の名にちなむ。

※なまはげ

毎年大晦日に男鹿半島の多くの地域で行われる民俗行事。鬼のような面に包丁などを手にした「なまはげ」が「泣く子はいねが」などと言いながら、家々を回って歩く。「男鹿のナマハゲ」として昭和53年に国の重要無形民俗文化財に指定されている。